

志染地区市政懇談会 議事録

- 1 日 時 令和5年10月20日（金）
午後7時00分～午後8時30分
- 2 場 所 志染町公民館 大会議室
- 3 参加者 志染地区 11人
市 20人（市長、副市長、副市長、教育長、総合政策部長、総務部長、市民生活部長、健康福祉部長、産業振興部長、都市整備部長、上下水道部長、議会事務局長、消防長、教育総務部長、教育振興部長、企画政策課長、市民協働課長、観光振興課長、農業振興課長、交通政策課長）
オブザーバー 5人
傍聴者 5人

4 内 容

(1) 地区からの意見・提言及び市からの回答
別紙のとおり

(2) 意見交換

ア 財政健全化と将来の姿

【大谷地区】

青山7丁目団地再耕プロジェクトと山田錦の郷活性化構想について、確認の意味で教えていただきたい。

【総合政策部長】

青山7丁目の団地再耕プロジェクトは青山7丁目にある大和ハウスの土地を活用して周辺地区の活性化につなげていくプロジェクトである。全国に約3,000ある団地の先進事業として、住み続けながら新しい世代も呼び込んで循環していくようなまちづくりを大和ハウスと一緒に進めている。

【産業振興部長】

山田錦の郷活性化構想は吉川地域を中心としたまちの活性化構想である。山田錦の館及び吉川温泉よかたんの利用者が少しずつ減少傾向になっており、市としても活性化したい思いがあった。かねてから吉川では吉川町商工会、吉川まちづくり公社、吉川町まちづくり協議会による吉川活性化委員

会があり、地域と市で思いが合致したため、構想を作り上げた。メインとなる山田錦の館をリニューアルし、道の駅化を目指している。おおよそ、令和7年の春頃には整備を終え、道の駅に登録したいと考えている。

【大谷地区】

財政健全化の中で、基金の取り崩しが続けば、財政基金が枯渇してしまう見込みであり、市の事業縮小が懸念されるが、いかがか。

【総務部長】

今まで、基金を取り崩しながら財政を維持してきた。基金を崩さずに収支の均衡を図っていくことが、財政健全化の目標である。

【副市長】

三木市には他市に比べて手厚い事業、薄い事業がある。これを見直すことが財政健全化の目的である。三木市の全ての事業を縮小するわけではないのでご理解いただきたい。

イ 酒米山田錦のさらなる拡販に向けて

【大谷地区】

山田錦について、市内で約11億円程度の売上高があると聞く。これをお酒にして販売すると大きな事業である。毎年とは言わないが、JAみのり、JAみらいとともに生産地である志染地区周辺でも山田錦まつりに類似する催しを開催してほしい。

【市長】

ご提案の内容について、市は推進していたが、JAみのりJAみらい間での協議が進んでいない状況である。現在、市では山田錦振興プロジェクトを開催している。これを足掛かりにJAにも協力いただけるよう進めていきたい。

ウ 防災センター及び、防災公園と地元との関わり

【三津田地区】

地区と防災公園との意見交換の機会を設けていただきたい。防災公園の担当者が変わる等で地区との対話の経緯が引き継ぎされず、そのままになっていることがある。

【副市長】

防災公園と意見交換する内容を教えていただき、具体的に何に困っているのかを地区と市と一緒に伝える必要があると考える。内容については、私からも防災センター長へお伝えする。

【市長】

兵庫県との意見交換にあたり担当課において、日程調整をさせていただく。地区からも相談内容を兵庫県へ伝えていただきたい。

エ みつきいバスの利便性向上

【安福田地区】

免許を返納した方はバスが必要である。買い物しやすい時間帯だけでも増便して欲しい。

【都市整備部長】

朝7時から21時にかけて概ね1時間に1本以上の頻度で県道三木―三田線を運行する路線バスが走っている。恵比須駅方面への路線バスを是非とも、ご利用いただきたい。

【市長】

買い物しやすい時間帯など、具体的にどの時間帯にバスが地区として必要なのか、聞かせていただきたい。バス事業者が対応できるかどうかになるが、市からも伝える。

【吉田地区】

デマンド型交通に期待しているが、志染町外への運行はできないと聞いている。地区の実情を考慮し、利用しやすいデマンド型交通となるようお願いする。

【都市整備部長】

デマンド型交通は検討段階である。地区外への運行も含めバス事業者との役割分担など、十分に協議の上、運用していきたい。

【吉田地区】

ライドシェアは検討しているか。

【交通政策課長】

ライドシェアは事故が生じた際などに課題がある。全国的に広まった際には活用法を検討する。

【大谷地区】

三木市から始めたら良いのではないか。

【市長】

国において制度の設計がまだなされていないのが現状である。そのため、議論が始められていないことをご理解いただきたい。今後の動向を注視したい。

オ 地域計画作成について

【戸田地区】

営農組合の組合員が高齢化している。今後10年先を考えると山田錦などだれが作っているのか想像もつかない。国の制度を紹介するのはいいが、国も県も市も地域の農業が活性化する策を考えてほしい。

【産業振興部長】

国において、食料・農業・農村基本法が20年ぶりに見直されるが、具体的な支援策はまだ提示されていない。スマート農業などの試みは示されても個人農家にとってはなかなか導入しづらいものと思われる。

ただ、三木市内で新たに農業をしたいとの相談が月に数件寄せられている。このような方を大切にし、地域でも受け入れる体制や雰囲気づくりが重要であると考えます。

まずは、この先の10年、どう農業を守っていくのか、地区の皆様で知恵を絞って考えて欲しい。市としても一緒に考えていく。